

新たな学園づくり地域検討委員会

だより No. 6

地域検討委員会での検討状況をお知らせします

城東学園新たな学園づくり地域検討委員会では、掛川市が今後進めていく小中一貫教育にふさわしい学園・学校づくりの検討を、昨年の12月から行ってきました。地域検討委員会だよりNo.6号では、学園内の保護者の皆様、地域の皆様にこれまでの検討状況をお知らせします。

◎第1回 (H29.12.12)

- ・ 検討委員会の目的等の確認
- ・ 小中一貫教育が求められる背景（市教委から説明）
- ・ 掛川市が目指す小中一貫教育（市教委から説明）

意見・感想

一度にすべてを理解することは難しい。さらに理解を深める必要がある。

◎第2回 (H30.1.31)

- ・ 第1回地域意見交換会報告
- ・ 世の中の動き（国際化、情報化、多様化、高齢化、**少子化**）
- ・ 小中一貫教育（学園とは、一貫教育とは、小中一貫教育の効果、小中一貫教育の施設形態）
- ・ 小中一貫教育について（グループ協議）

単学級…クラス替えができない。人間関係が固定化される。

意見・感想

「新たな学園づくり」検討の必要性が理解できた。一貫教育の具体的なイメージが見えない。小さな子どもを持つ保護者の意見も聞くべき。地域の多くの人に知ってもらう必要がある。
→5～6月に園・小学校の保護者向けの説明会を実施

◎第3回 (H30.3.16)

- ・ 城東学園のデータ確認（児童・生徒数の推移、校舎の老朽化状況、一体化した場合の規模）
- ・ 学園のイメージ（分離型、隣接型、一体型）
- ・ 学園内の学校施設の在り方について（グループ協議）

意見・感想

城東学園の現在の状況、学園のイメージについて理解できた。
城東学園での一貫教育の現状、課題は何か。

児童生徒数の推移（城東学園）

学校名	平成7年	平成30年
土方小	223	157
佐束小	252	152
中小	174	115
城東中	376	208

学校施設の経過年数（平成30年現在）

学校名	校舎	体育館	プール
土方小	55年	42年	15年
佐束小	37年	41年	53年
中小	39年	39年	37年
城東中	44年	42年	43年

校舎だけでなく、プールや体育館も老朽化が進んでいる学校が多い。

一体化した場合の学校規模（平成30年度児童生徒数を基に計算）

学校名	児童・生徒数	小中別	小中計
土方小	157	424	632
佐束小	152		
中小	115		
城東中	208		

学校規模が1,000人を超すと一体化には適さない。城東学園が一体化すると、1学年2～3クラス程度となりクラス替えが可能な一体校に適した規模の学校になる。

小中一貫教育推進のための施設形態



◎第4回 (H30.5.23)

- ・城東学園での小中一貫教育研究の現状 (城東中学校長の説明)
 - ・小中一貫教育について (グループ協議)
- 意見・感想
城東学園の小中一貫教育の現状や課題などが分かった。
市の予算面の現状、今後の方向性はどうなっているのか。

小中一貫教育の様子 (城東学園・原野谷学園)



施設タイプ別のメリット・デメリット (検討委員の意見から)

型	予想される成果	予想される課題
分離型 (現状維持)	<ul style="list-style-type: none"> ・通学に便利 ・先生の目が行き届く、保護者として不安が少ない。 ・小規模校では異学年交流が密で高学年の子どもが成長しやすい。 ・地域の防災拠点機能が維持できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人間関係が固定化される。クラス替えができない。 ・競争心が衰える。 ・いろいろな人と接することができない。 ・大規模校の子に比べ打たれ強さが違う。 ・集団競技などがしにくい。 ・交流が行事中心となり、学習での交流は難しい。 ・教員の打合せ時間の確保が難しい。 ・交流の際の移動手段の確保。 ・小さな学校では、校地の管理がたいへん。 ・小さな学校では、教職員の負担が大きい。 ・こども園ができるのに、小学校が分離型では意味がない。 ・人口減を考えると、学校がなくなること問題をしている状況ではない。
一体型	<ul style="list-style-type: none"> ・たくさんの友達とふれあえてよい。 ・クラス替えがあり新たな気持ちでスタートできる。 ・特別支援学級の子も学園内の学校に通える。 ・城東中周辺に幼保・小・中学校が集まれば、環境の変化による中1ギャップもなくなる。 ・小学校での教科担任制などが実施しやすい。 ・コスト面を考えると一体型がよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通学の安全の確保。 ・小学校の地域コミュニティ・防災拠点機能をどう維持するのか。 ・どの学年段階でリーダーシップを取っていくのか。 ・小学校と中学校の連続が子どもにとって刺激にならないのではないかな。



◎第5回 (H30.7.11)

- ・掛川市における公共施設等の管理の方針 (市公共施設マネジメント室長の説明)
- ・検討委員会での発言整理
- ・各委員の意見発表

意見・感想

市の公共施設管理の現状と課題が理解できた。
提言の方向性がほぼ決定した。
先進校の状況を知りたい。

掛川市の公共施設管理の考え方

- ・施設 (公共施設・インフラ (道路や橋、河川、上下水道等)) の状況
昭和50年代に整備された築30年以上経過した施設が多く、今後、施設の維持・更新に多額の費用が発生することが見込まれる。
- ・市の財政の状況
人口の減少による税収減、高齢化による扶助費の増加により、今後、施設の維持・更新に十分な費用を充てられないおそれがある。
- ・公共施設の管理方針
①保有量の適正化 ②長寿命化と安全確保 ③運営管理の適正化 (経費削減、官民協働)
学校施設についても聖域ではなく、上記①~③の考え方の中で適正に管理する必要がある。

第5回時点での各委員の意見

- ・分離型 2人
- ・一体型 (小学校のみを統合するor小中一体校) . . . 22人
- ・その他 1人

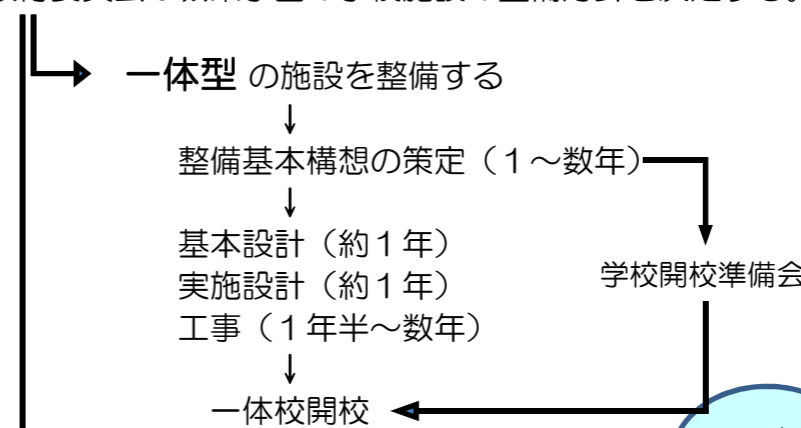


今後の計画

- ・第6回検討委員会 先進校視察 (中央小)
- ・第7~8回検討委員会 提言のとりまとめ

検討委員会からの提言後の流れ

検討委員会からの提言
↓
市・市教育委員会が城東学園の学校施設の整備方針を決定する。



必要に応じて
・校舎の補修
・長寿命化もしくは建て替え

○児童・生徒数が減少した場合には、小学校同士、中学校同士の統廃合を検討することも。
○市の財政状況を考えると、それぞれの学校単独での施設の建て替えは難しい。

第2回地域意見交換会を開催しました

第2回目となる地域意見交換会を、8月29日 土方地区、8月30日 佐東地区、9月1日 中地区の3会場で開催し、あわせて51名の方に御出席いただきました。意見交換会では、新たな学園づくり地域検討委員会の鈴木委員長から、これまでの委員会での検討内容について報告を行った後、参加者の皆さんとの意見交換が行われました。ここでは、いただいた御意見の一部を紹介させていただきます。

- ・子どもに多様性、多様な価値観を身に付けさせるためには、城東中学校の規模は小さすぎる。大浜中と城東中の統合を検討するべき。
- ・意見交換会に地域の皆さんの参加がほとんどないことが残念だ。検討委員会の考え方、進め方をこの会に出席されていない方たちに伝えていくことが今後の課題だと思う。
- ・学校は地域の太陽であり、この地域から幼稚園も小学校もなくなれば、子育て世代はこの地域から出て行ってしまう。
- ・小学校は1学年2学級あるのが望ましい。1学級では人間関係でトラブルに陥りやすい。
- ・掛川市内に小中学校が31校もあるのは、明らかに多い。いつまで維持できるのか、維持していくのは難しいのではないか。
- ・一体型の一貫校が新たな魅力となって、そこに人が住みたくなるような学校づくりをしてほしい。
- ・新しい学校の設置場所には東京女子医科大学の敷地を使えば、経費が安くすむのではないか。
【事務局回答】東京女子医科大学では、今後大学院の研究施設として活用していく意向と聞いている。現段階では、掛川市が跡地利用を検討する状況ではない。
- ・今日の会の内容を地域の皆さんに回覧等で知らせて欲しい。



説明をする鈴木委員長



意見交換会の様子

意見交換会の詳細は、掛川市のホームページに掲載されていますので、こちらにも御覧ください。

城東学園新たな学園づくり

検索



第6回新たな学園づくり地域検討委員会の開催について

日時：平成30年10月19日（金）

場所：中央小

内容：市内で最新の学校の視察・委員会としての方向性の取りまとめ

御意見・御質問等ございましたら、お寄せください。

発行・編集
掛川市教育委員会 教育政策室

〒436-8650 掛川市長谷一丁目1-1
電話：0537-21-1109 FAX：0537-21-1222
E-mail：kyoikubu@city.kakgeawa.shizuoka.jp

